

カトリック布教を目的とした

ガラスカラーライドのデジタルアーカイブ

Digital archive of color glass slide for Christian missionary

09528 原直輝

指導教員 杉本文司

1. はじめに

近年文化財資料のデジタル化が博物館や美術館で進められている。コンピュータを利用したデジタル画像技術の進歩により写真画像のデジタル画像化は進んでいるからと考えられる。本研究室でも楽譜資料とガラス乾板資料をデジタルアーカイブ化のテーマに取り組んでいる。

本卒業研究は、創立者チマッティ神父が所蔵した貴重なガラスカラーライドを修復し活用できるようにすることに意義がある。ガラスカラーライドは高温多湿の日本において変退色が進んでおり、また素材がガラスのため頻発する地震により破損する可能性がある、このような理由からデジタル化の作業が急務と考えられる。

所蔵のガラスカラーライドは変退色が進んでいて実際に活用するのは困難であるため、デジタル技術を駆使することでガラスカラーライドの修正を実行し、複製した。

2. 資料について

主にキリスト教の教訓や神話などが絵で表されており信者や子供たちに教え説くために利用されていた。

縦横 7cm×5cm 厚さが 0.3cm。時間の経過で重ね合わせる際にノリとして使用したデンプンが原因で変色していて、全体的に青黒く変色している。

3. 方法

①ガラス支持体のすぬけ部分で一番明るい白から数値を測定し平均を求める。

②色度図上で修正前の色平均(P点)と修正の基準平均(Q点)から差を求めることで修正に必要な数値を導き出す。

4. 結果

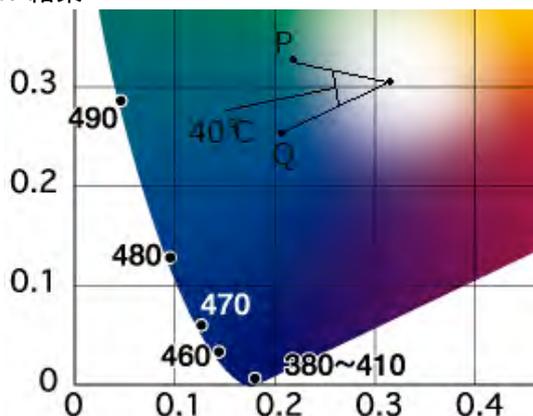


図 1: 色度図上での色の変化

① R:46 G:47 B:50

② 修正前の平均値(P点) R:151 G:167 B:176

基準の平均値(Q点) R:145 G:178 B:202

色度図上での比較(図 1)より再度調整に必要な値を算出する。

以上の結果より修正前の図 2 を図 3 へと修正した。



図 2: 修正前のガラスカラーライド



図 3: 修正後のガラスカラーライド

5. おわりに

本研究ではガラスカラーライドの修正に必要な情報の収集に重点を置いた。

このガラスカラーライドは約 100 年前の物であり、チマッティ資料館に貯蔵されているもの以外にも同様のガラスカラーライドが存在する。

保存環境によって変退色の具合は変化することが予測されるが、本研究で得られた数値情報は今後同様の修正を行う上で 1 つの指標として利用できると考えている。

参考文献

[1] 藤田和弘, 貫田明宏, 稲垣昭生: 『劣化画像復元を用いた JPEG 画像修正法』

調査協力

[1] サレジオ神学院 チマッティ資料館